

子ども大学だざいふ・ふくおか CUDサポーター募集

子ども大学だざいふ・ふくおか（CUD）では、「子ども大学」を子どもたちにとって実りあるものとし、且つ授業料を無料にするために、多くの皆様にご支援をよびかけています。ご支援の方法は、①ご協賛金 ②ボランティアの2つです。

①につきましては、広くご協賛金を受けつけていますので、ご協力をお願いします。

既にご協賛をいただきました個人様・企業様には、この場を借りて心から感謝の意を表します。

②につきましては、授業当日の運営をはじめ、チラシの配布や申込受付などの作業をお手伝い頂きたいと存じます。

①②ともに、サポーターになっていただいた方には、金額・回数に応じて、年間1～3回までの「CUD授業聴講券」をご提供いたします。

「CUDサポーター」のお申し込みは、下の申込書にご記入いただき、FAXでお送りいただくか、スマホなどで撮影したものを、eメールにて送信していただきますようお願い申し上げます。CUDより協賛金のお振込先やボランティアの詳細をお送り致します。



子ども大学だざいふ・ふくおかはボランティアで運営されています。ぜひサポーターにご登録ください。写真は、CUKuのボランティアの1コマです。

CUD サポーター応募申込用紙				
フリガナ	年齢	性別	○をつけてください	○をつけてください
氏名		男・女	ご協賛 ボランティア 両方	個人 団体
フリガナ				
住所 〒				
電話番号 ()	(※日中、連絡が取れる番号)	E-mail		
応募動機				

NPO子ども大学だざいふ・ふくおか

- 名誉学長/楠田大蔵 ●学長/久保千春
- 総長/大西良 ●理事長/吉澤みか

URL: <https://www.facebook.com/groups/1186951935005275/>

Facebook



お問い合わせ

子ども大学 だざいふ・ふくおか

学生募集要項



授業料
無料!



イラスト:黒田征太郎

「子ども大学」とは
 児童 (pupil) が^{ビュービル}学生 (student) となって
 大学の教室で各界の専門家から
 大学生レベルの授業を受けるというプロジェクト。

NPO 子ども大学だざいふ・ふくおか

世界の「子ども大学」の由来と「子ども大学だざいふ・ふくおか (CUD)」

「子ども大学」というプロジェクトが世界ではじめて誕生したのはドイツのチュービンゲン大学で、2002年のことでした。ドイツでは、誕生以来、子どもたちの間で人気となり、短期間に国じゅうに広まりました。その後、ヨーロッパ各都市に100校近くが開校され、日本でも2008年12月に埼玉県川越市に誕生。その後、埼玉県に50以上、その他の関東地方、愛知県、和歌山県に誕生しました。

2019年には、東京初の子ども大学として「子ども大学くにたち (CUKu)」が誕生。そして九州初の子ども大学が、今回発足する「子ども大学だざいふ・ふくおか (CUD)」です。



2019年11月、子ども大学くにたち (CUKu) のプレ開校での1コマ。講師は女子ソフトボール金メダリスト (2008年北京) の佐藤理恵さん。

「子ども大学」の意義

子どもたちの知性というのは、10歳前後から急速に発達すると考えられています。この年齢の子どもたちは、頻りに「なぜ?」「どうして?」という質問を發します。なかには、人生や自然や社会現象などあらゆることで、本質に迫る鋭い疑問も少なくありません。ところが、そうした疑問に対し、大人は適切に答えられないことが多くあります。そこで必要となるのが、その道の専門家による解説です。「子ども大学」は、大学教授や専門家が、豊富な専門知識により、きちんと解説するというプロジェクトです。



2019年12月、子ども大学くにたち (CUKu) のプレ開校の1コマ。講師は、ノンフィクション作家の柳田邦男さん。

● 第一線で活躍するCUKuの主な講師予定者 (五十音順)

名前 (五十音順/敬称略)	所属/経歴
アーサー・ピナード	詩人・翻訳家
縣 秀彦	天文学者/国立天文台天文情報センター・国際普及室 (IAU・OAO 室) 室長
安部義孝	アクアマリンふくしま館長
池上 彰	ジャーナリスト
内田勝久	元パラリンピック日本代表
内田 樹	神戸女学院大学文学部総合文化学術科教授
江副悟史	日本ろう者劇団代表
海老名香葉子	随筆家
大熊廣明	筑波大学名誉教授
大芝 亮	国際政治学者/元一橋大学副学長
川島隆太	東北大学加齢医学研究所所長/ニンテンドーDS「脳トレ」開発者
神原雅之	京都女子大学教授/元国立音楽大学教授 (副学長)
きむらゆういち	絵本作家
黒田征太郎	イラストレーター
小宮輝之	上野動物園元園長
紺野美沙子	国連開発計画 (UNDP) 親善大使
佐藤理恵	北京オリンピック女子ソフトボール金メダリスト
鈴木伸一	杉並アニメーションミュージアム館長
高橋秀雄	児童文学者
田尻由貴子	慈恵病院元看護部長 (赤ちゃんポスト) に携わる
ちばてつや	漫画家
常光 徹	民俗学者/国立歴史民俗博物館名誉教授
中満 泉	国連軍縮担当事務次長
橋本淳司	水ジャーナリスト/アクアコミュニケーター/アクアスフィア代表
バックンマックン	タレント
服部幸應	料理研究家
林家木久扇	落語家
保坂直紀	サイエンス・ライター/気象予報士/東京大学教授
松居 友	児童文学者/ミンダナオ子ども図書館 創設者・エグゼクティブディレクター
最上一平	児童文学者
矢島 稔	昆虫学者/上野動物園水族館元館長/NHK ラジオ「夏休み子ども科学電話相談」回答者
柳田邦男	ノンフィクション作家
渡邊 優	前・キューバ特命全権大使

※CUKuから講師の応援もいただける予定です。

2本柱の教育方針 (2本柱とは、「SDGs」と「アクティブ・ラーニングによるキャリア教育」のこと。)

①SDGsを基軸にしたカリキュラム

「SDGs」は「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称で、読み方は「エス・ディー・ジー・エス」ではなく、「エス・ディー・ジェズ」です。「Gs」は、Goal (目標) の頭文字のGに複数数をあらわす「s」をつけたもの。SDGsのゴールは、下に示す17個です。これらは、2015年9月に国連で193の加盟国のすべてが賛成して採択された、全人



類の目標です。2016年から2030年の15年間で達成することが決まりました。

CUDでは、人類が達成しなければならないとされたSDGsの17個の目標を強く意識し、17個の目標の1つずつを毎回の授業のテーマとしてカリキュラムを作成します。現在、学校教育では、SDGsの普及が遅れていますが、みんながSDGsを理解し実践しなければならない時代がもうすぐやってきます。

CUDでは、それに先んじて授業をおこないます。

②アクティブ・ラーニングによるキャリア教育

CUDのもうひとつの柱は、キャリア教育です。

「キャリア教育」とは、「仕事とは何か?」「自分にあった職業は?」などといったことについて、しっかり考えようという教育のことです。CUDはみんなに、大学生レベルの授業から、仕事観・職業観を身につけていてもらいたいと願っています。そのための方法が、アクティブ・ラーニングです。

「アクティブ・ラーニング」とは、今、学校で盛んにいわれている「自主的・対話的・より深い学習」のことです。

CUDではまさに、自主的に集まってきたみんなが、学校では触れることができない第一線で活躍する専門家の人たちと対話をしながら (対話的)、より深い学びをしていきます。* 次のページにその例があります。



2019年12月、CUKuのプレ開校での2回目のようす。講師は料理研究家の服部幸應さん。

*新型コロナウイルス感染予防に関する対策を十分に行った上で実施します。

授業の例



池上彰先生が「子ども大学かわごえ」でおこなった実際の授業の冒頭部分を紹介し
ます。

なぜ、戦争が起こるのか？

現在も世界では、戦争がなかなかなくならないですね。ぼくたちの日本も、昔から何度も戦争してきました。とくに第二次世界大戦では、日本は中国大陸や東南アジアで戦争して、何百万人ものが亡くなったり、けがをしたりしました。

その戦争が終わったあと、日本は、ここまで平和にすごし、経済も発展しました。でも、これからずっと平和であるかどうかはわかりませんよ。

なぜ、戦争が起きてしまうのでしょうか。戦争をなくすためには、どうしたらいいのでしょうか。みんな、どう思いますか。わたしが一方的に話をすることはしませんよ。みんなの意見をきいて考えていきましょう。

さあ、それぞれ考えたことを発言してくれるかな。まず、きみ！

●土地を広げたりしたいからだと思います。

どうして土地を広げたくなるの？

●自分の住む場所が広がって便利になるから。

なるほど。人が住んでいない島をほしがっている国もあるよね。その島をめぐるって、けんかも起きたりするね。

●ちがう国のところまで土地を広げれば、その国の物や知識が手に入るからではないでしょうか。

自分の土地をちがう国にまで広げれば、その国のいろいろな物や知識が手に入る？ でも、そんなことしていいの？ いいわけないね。

●よその国の領土に入ったりその国の海で魚とか石油を勝手にとったりして、もめごとが起きて、戦争が起きてしまいます。

●戦争が起きるのは、工業を発展させたくて、賠償金をもらって、どんどん工場を建てたいから。

きみは、どこかの国のことを知っているのかな。戦争をしかけて戦争に勝って、賠償金をとって、それで工業を発展させようというわけだ。でも、戦争をした結果、その工業が壊滅状態になったらどうしようね。

●食べ物とかほかの国から輸入している物があるから、それでけんかが起こるんじゃないかな。

それでどうしてけんかになるのかな。日本は世界じゅうからたくさんのおおきな食べ物を輸入しているよね。でも戦争になってないよ。

●もっと安くしてくれとか、うちの物ももっと買って
くれとか、いろいろ。

どこかの国のことについて知っているみたいだね。

ところで、みんなは、「経済戦争」という言葉を知っているかな。実際に殺しあいをする戦争じゃなくて、よその国から物を安く輸入しようとか、よその国に対して「もっと安くしろよ」とかいいあっているうちにトラブルが起きて、関係が悪くなったりする状態を「経済戦争」というよ。でも、いろんな国といろんなつきあい方をしている、経済戦争が起こり、はげしくなると、本当の戦争になる危険性があるよね。

それでは、どうして国どうしの対立が起きるのか、みんなの意見をきいてみたいな。はい、きみ。

●欲と欲とのぶつかりあいだと思います。

その場合の欲って、なにかな？

●お金とか領土とか。

●食料のうばいあい。

ところで、きみは兄弟いる？ 兄弟で食べ物のおうばいあいをやっていないかな？

●おかしとか、しょっちゅうやっています。

みんな、いろんな物をうばいあっているよね。大人は、食料のうばいあいで戦争する。でも、なんでうばいあいをしかけるのかな。

●自分が強いと思っているから。

強いから、ほかの国をやっつけることができる、と思う国があるってということ？

●燃料のうばいあい。

その場合の燃料って、なにかな？

●ガソリンとか。

ガソリンはなにからつくられるか知ってる？

●石油。

そうだね。石油のうばいあいだよ。

続きをご覧になりたい方はCUDまでお問い合わせください。

授業の例



北京オリンピックの女子ソフトボール金メダリスト、佐藤理恵先生が「子ども大学くたち」でおこなった授業の一部を紹介します。



佐藤先生は、まずボールの投げ方やソフトボールの競技について実践をまじえて解説して、次に金メダルをとるためにしてきたことを教えてくださいました。

金メダルをとるためには？

北京オリンピックでは、日本が世界一になったんですが、その際、わたしたちチームが一番大事にしていたことについてお話ししますね。それは、目標設定。目標は、とうぜん金メダル。そして金メダルを取るためには、どうしなければならないかをチームメイトでことん話しあいました。この話しあいも、わたしたちは大事にしました。

いちばんの課題は、強力なライバル、アメリカ。アメリカの選手は、みんな身長が高くて体格がいいことにくらべて、日本人は小柄です。アメリカを相手にして、どうやって戦うのかを徹底的に話しあいました。

体格の差を補うために、パワー（体力）やスピードをつけなきゃいけない。そのために筋力をあげたり、筋肉を増やしたりするためのウェイトトレーニングをおこないました。

つぎに「技」。アメリカのチームには、ホームランバッターがたくさんいるでしょ。そこで、わたしたちはつぎのようなことを話しあいました。

- ・送りバントをして細かく点数をかせぐ。
- ・ピッチャーを打ちくずすために、どんな投げ方をす
るのかを映像を見て研究する。

・「心」の大切さを確認。「心」とは、チームワークのこと。

さいわい、わたしたちチームメイトは、みんな仲良しでした。おたがいを思いやる気持ちが強くて、世界一のチームワークだったとおもいます。だから、結果、金メダルが獲得できたんです。

チームワークを育てる

日本代表が、チームワークのために「これだけはしっかりやっておこう」と決めていたことがあります。それは、次のようなことです。

- ①あいさつ・返事・身だしなみ
- ②時間厳守
- ③全日本選手として自覚と責任をもって行動する
- ④グラウンド内では全力プレー
- ⑤マイナスな発言をしない
- ⑥その場で実践
- ⑦For the Team（チームのためにできることをしっかりやる）
- ⑧目配り・気配り・心配り

みんなのなかで、少しむずかしそうなことがあると無理だな、と思ってしまう人、いるよね。だけど、そこで「できる！」と思うことがたいせつだよ。日本代表も日頃の生活からポジティブな発言をするようにチームで心がけていました。みんなも今日から実践してみようね。



佐藤先生は、日本代表の写真をスライドに映して見せてくれました。それは、チームが一丸となって世界一になるという気持ちをあらわしている姿だといえます。

続きをご覧になりたい方は、CUDまでお問い合わせください。

黒田征太郎先生による題字とロゴ

子ども大学だざいふ・ふくおか (CUD) の題字とロゴ・キャラクターは、世界的にも著名なイラストレーター・黒田征太郎先生が無償でかいてくださいました。黒田先生は「子どもたち・ちびっこたちの人生を生き地獄にするのは、大人としてかっこ悪いとぼくは思うんです」と語り、「ぼくは、子ども大学のプロジェクトにはできることをなんでもする」と言ってくださいました。



校歌にこめた想い

右は、CUDの校歌です。これは、「子ども大学くにたち (CUKu)」の学長・片岡輝先生が作詞されました。片岡先生は『グリーングリーン』『とんでったバナナ』などの作詞でも知られる、東京家政大学の元学長です。作曲は、「100万本のバラ」「知床旅情」などで知られるシンガーソングライター、加藤登紀子さんが手がけました。

歌詞の中の「令和の里の ふくおかの大学」に注目してください。CUDがあるのは、福岡県太宰府市。新元号「令和」ゆかりの土地として注目を集めていますが、古くから文化の中心地のひとつでした。歌詞には、そうした「令和の里」で学ぶ子どもたちが、新しい時代で活躍して欲しいという想いがこめられています。*

「子ども大学だざいふ・ふくおか」

知りたがり屋で あきらめ知らず
なんでもありの 可能性無限
不思議を見つけ その謎にせまる
定理 法則 発明 発見
令和の里の ふくおかの大学
子ども大学

つぶらな瞳 まっすぐ強い
視線の先に 森羅万象
未知の世界に 切り込み挑む
アイデア 冒険 探索 討論
勉強じゃなく 創造の大学
子ども大学

頭の体操 イメージ遊び
化学のピンポン 哲学マラソン
自由な感性 花咲く心
勇気 信頼 愛情 希望
争いじゃなく 平和を守る大学
子ども大学

作詞：片岡輝
作曲：加藤登紀子



「SDGs子ども大学運動」とは？

これまで日本には60校以上の「子ども大学」が生まれました。神奈川県鎌倉市には、著名な脳科学者の養老孟司先生が学長をしている「子ども大学かまくら (CUKm)」もあります。でも、SDGsをカリキュラムの基軸にしたものは、CUKuがはじめてです。

このため、2019年開校のCUKuの創設は各方面から注目され、同じような「子ども大学」が各地にできようとしています。

そこで、CUKuが中心になってはじめてのが、「SDGs子ども大学運動」です。これは、国連広報センターや国

連開発計画 (UNDP) も応援してくれています。子ども大学だざいふ・ふくおか (CUD) は、この運動の元で開校する第1校目です。

なお、CUKuの校歌を作詞して下さった片岡輝先生も、また、作曲して下さった加藤登紀子さんも、また、曲を子ども用にアレンジして手話の振り付けもして下さったミュージカルアカデミードリームさんも、全国で歌ってもらえるように著作権を放棄して下さり、この度、子ども大学だざいふ・ふくおか (CUD) でも使わせていただけることになりました。

*もともとCUKuの校歌として完成したこの曲は、青い文字の部分が、「国立じゃなく くにたちの大学」という歌詞でした。この歌詞に込められているのは、子ども大学とは、「国がつくる(国立)のではない」ということ。いいかえれば、「みんなで作る」という想いなのです。この想いは、子ども大学だざいふ・ふくおか (CUD) もまったく同じです。

学生募集要項

授業料無料!



- 開校日：2021年3月から2022年3月の間、全3回開催。
- 時間：1日2コマないし3コマ授業
- 会場：福岡女子短期大学、太宰府市、福岡県内の大学
- 講師：第一線で活躍する専門家
※日程・講師等の詳細は、公式フェイスブックをごらんください。
- 対象者：福岡県内で通学する小学4・5・6年生とその保護者
※原則、子どもと保護者でご応募頂きますが、子どもと保護者の席は別になります。別席が難しい場合には、ご相談くださいませ。
- 定員数：150組 (先着順)
- 授業料：無料
※但し、使用料がかかる会場の場合には、徴収することもあります。また、実費費用 (教材費・光熱費・保険料…) を申し受けます。



子ども大学だざいふ・ふくおかの授業例

2020年10月17日 (土) のプレ開校は福岡女子短期大学でおこなわれました。各分野の第一線で活躍する3人の先生が授業をしてくださいました。

- 山本太郎先生
長崎大学熱帯医学研究所教授
- アーサー・ピナード先生
児童文学者・詩人
- 吉澤一成先生
九州大学先端物質科学研究所教授



CUDの会場のひとつ、福岡女子短期大学。

子ども大学だざいふ・ふくおか
だざいふ・ふくおか
プレ開校!
参加者募集!
2020年10/17(土)
13:00~17:00 (12:45開場)
福岡女子短期大学 135,136中講義室
太宰府市五條4丁目16-1 (西鉄五條駅より徒歩10分)
参加対象/小学4~6年生と保護者1人:50組
参加費無料!
(応募多数の場合は抽選を行います)

●講師紹介

<p>山本太郎 長崎大学熱帯医学研究所・国際保健学分野教授</p> <p>1964年生まれ。図書館用児童書シリーズ「ウイルス・感染症と「新型コロナ」後のわたしたちの生活」(新日本出版社)の監修ほか、「感染症と文明」(岩波新書)など著書多数。</p>	<p>アーサー・ピナード 児童文学者・詩人</p> <p>1967年ミシガン州生まれ。大学卒業と同時に来日。2013年「さがし」で講談社出版文化賞絵本賞受賞。親しい視点と独特な語り口に魅せられるファンが多い。</p>	<p>吉澤一成 九州大学先端物質科学研究所教授</p> <p>1958年生まれ。工学博士。専門は量子化学。趣味は登山(日本山岳会会員)。著書は「分子の物理化学」(共著新書)など。</p>
---	---	--

子ども大学とは
黒田征太郎先生が書いたのはデザイン・ピンポン大学で、大学も小学生に開校したのです。2020年10月17日(土)のプレ開校は福岡女子短期大学でおこなわれました。各分野の第一線で活躍する3人の先生が授業をしてくださいました。この機会にぜひご参加ください。授業料は無料です。参加費もありません。お申し込みは「子ども大学だざいふ・ふくおか」のホームページからお願いします。お申し込みは10月17日(土)の13時までにお願いします。お申し込みは「子ども大学だざいふ・ふくおか」のホームページからお願いします。お申し込みは10月17日(土)の13時までにお願いします。

本開校は2021年春

プレ開校へのお申し込み・お問い合わせは下記のメールアドレスへよろしくお願ひ申し上げます。
(プレ開校に関して、会場である大学への直接のお問合せはご遠慮くださいませ。)
子ども大学だざいふ・ふくおか事務局: info@childuniv-fukuoka.com (TEL:093-5683-1935)

●主催/子ども大学だざいふ・ふくおか ●後援/太宰府市・大学教育委員会 ●協賛/まぜこぜむろ ●協力/SDGs子ども大学運動実行委員会